

Hop Step Jump

10

初任者研修第 10 回 人権について考える② アンケートの感想から

今回は、大阪人権博物館（リバティおおさか）を会場としての研修でした。課題は、人権教育のプログラムにリバティおおさかをいかに利用するかでした。

この施設には初めて来た。人権問題については、正直言うと自分からは少しかけ離れたものであると思って
いたし、研修等で学んでもピンと来てなかった。私の中でぼんやりしていたものが少しははっきりしたよ
うに思う。実際の資料、本物の声というのは生々しくて重いと感じた。今回ここに来てよかった。

「自分からはかけ離れている」「ピンと来ない」。まずはじめに持つ正直な気持ちだと思います。でも、私たち
は日々子どもたちを前にして、問い続けなければならない課題であり、教育の根っこに関わる問題です。うまく
まとめられないもやもやした気持ちも大切だと考えます。そのもやもやの原因はいったい何なのでしょう。

感じたことは様々あるのですが、うまくまとめられません。今日、「一人一人を大切にしていあげられたかな」
とクラスの子たちを思い浮かべてみましたが、出来てなかったなあと反省です。日々、一進一退ですが、忘
れないよう「一人一人大切に」「みんな大切な人」ということを明日から心にとどめて、子どもたちと
過ごしていきたいです。

この研修では、この展示をどう捉えたかをお互いが交流し、いかに教材化するかにテーマを絞りました。自身
に生じた変化や、揺さぶられた思いを出発点として、仲間どうしの思いを紡ぎ合わせる授業を考えました。

自分がこの展示をどう捉えるかだけでなく、他の先生方がどのように捉えているかを知ることができたこと
が有意義でした。特に、今日ちょうど人権について講演会をおえられた先生が同じ班にいらっしゃり、自分
よりもずっとずっと自分ごとの、リアルな見方をしていちゃって大変刺激になりました。また、自分自
身の“人権”についての考え方、そもそも“人権”とは？という定義についても考えさせられました。

もっと勉強しなければならないと感じた先生もたくさんいたようです。

博物館の中には様々なテーマの展示がされていて、時間が足りないくらい一つひとつのテーマに見入ってし
まりました。それぐらい、私自身の知識が甘かったと思います。“なんとなく知っている”だけでは、子ど
もたちに教える立場として恥ずかしいと感じました。子どもたちも“なんとなく知っている”こともあれば、
初めて聞く言葉や知ることたくさんあると思います。それをどう響かせて、自分のことに引きつけて考え
ていくことができるのか、ということ大切にこれからの人権教育や一人ひとりの生きる権利について深め
ていきたいと思いました。私が今日一番心に残ったのは、いじめを受けて命を落とした子どもたちの自筆で
の遺書でした。それを書いている子どもの気持ちを思うと涙があふれそうでした。

私たち教師は、人権教育を行う立場にあります。それは時に授業という明確な形で、そして日常の学校生活で
の隠れたカリキュラム(The Hidden Curriculum)として、常に進行しています。ゆえに、子どもたちの前で私
たちの振る舞いは常に問われ続け、子どもたちを大切に思う先生方の気持ちは人権教育の出発点となります。

改めて、クラス作りをしていきたいと思います。

大切に育てた子どもたちを、卒業前にこの場所に連れて来たい。そんな提案を後藤先生はしてくださいました。
大切に育てられ、仲間と支え合ってきた子どもたちなら、展示の中の人の痛みを敏感に感じ取ってくれるので
はないでしょうか。また、その解決のためにはたらいっている人々の『熱』に気付いてくれるのではないでしょ
うか。そんな子どもたちなら、進学先での新しい出会いを、希望を持って迎ええられるはずです。

このリバティおおさかでの 2 時間の研修だけでは難しいと感じます。ぜひ、この機会をきっかけとして、もう
一度訪ねてみてください。展示だけでなく、ホールや売店にも貴重な資料がたくさんあります。また、11 月 4
日と 18 日からは特別展がスタートしています。休日、仲間とともに、環状線ツアーに出かけてみてはいかがで
すか。